

育ちと学びをつなぐ

掛川市教育委員会

園小中接続便り①

令和4年7月29日

第1回 幼児教育と小学校教育の円滑な接続に向けた研修会を開催しました。

幼児教育と小学校教育の円滑な接続に向け、幼児教育施設の教職員と小学校の担当教員の合同研修会を令和4年6月23日(木)に開催しました。小学校教員22名・園保育者26名が参加し、講話とグループワークを通して、幼児教育と小学校教育の円滑な接続の必要性を理解するとともに、アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの充実・活用を図ることを目的に実施しました。令和5年1月に第2回研修会を予定しています。



土方・中幼稚園 石原敦子先生、ありがとうございました。



「友達と認め合ったり思いを伝え合ったりしながら、力を合わせて遊びを楽しむ子をめざして～幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を通して～」について、講話をしていただきました。

子供の姿・子供の興味関心を大切にしたい保育の中で、子供たちの育ちを捉え、教師が環境設定や適切な援助を考え取り組んだ、石原先生の素晴らしい実践発表でした。

石原先生の講話から ～どのような気づきや学びがありましたか？～

(参加者「研修アンケート」より抜粋)

- 子供の姿や気づきを教師が的確に捉え、**教師がねらいを押さえて、援助や環境設定をしていることが**、子供たちの深い学びにつながっていることについて、実践からよくわかった。
- 幼児教育では、1つの遊びの中に、いくつもの「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」があり、様々な遊びを通して、**総合的に育まれている**ことを改めて理解できた。
- 子供にどう育ってほしいか、**何をねらいにするかを、保育者が明確にすることで**、その活動への援助の方法が変わるため、ねらいを明確にし、実践していきたい。
- 幼児教育での経験を、小学校でも生かすことができるという**自信をもたせる声掛けや教師の働きかけ**を、小学校でもっとしていきたい。
- 机で学習する時間より、遊びを主体とした学習や生活科を中心とした学習が大切である。**教科の枠にとらわれず、遊びの延長の中で学んでいく時間の設定**をしていきたい。

保育の場面から、保育者と教員で語り合いました。

グループワークでは、右のようなワークシートを用意し、ある保育の場面の子供の姿を語り合いました。

遊びの中には、どのような「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」が見られるか、保育者と教員が一緒になって、語り合う時間は、幼児教育と学校教育の相互理解の第一歩だと感じました。

こうじゃない？…え？こう！？

夏休み前から続く、ヒーローごっこ、園内パトロールをしたり、困ったことを解決したり、だんだん本格的にヒーローになりきって遊ぶようになってくると、マントや剣などのアイテムもこだわって作るようになってきました。

「恋を二つつけた（突き通した）カッコいい剣を作りたい！」

「突き通すためには、強い芯にどうやって穴を開ければいいんだろ…」ハサミを挿して、穴を開けて、チョキチョキ切っても穴が大きすぎたり、切れちゃったり…

「あーもう、うまくいかない！！」の繰り返し…

「ここ切ったらいいんじゃない？」「もっとこうしたらいいかも！」「えっ？こっ？」とアイディアを出し合い、友達と一緒に試行錯誤の連続。「いいかも！」「ほんとだ！」「おおー！！」「できた！」「ひらめいた・気が付いた・見つけた」がいろいろあります。

こうして工夫を重ねながら作り上げた自慢のアイテム。見てください、このポーズ！この過程がつまっているからこそ、この最高の表情となりきり感です。

試行錯誤の時は、たくさん悩んで考えたけれど、だからこそ良い方法を自分たちで見つけ出した時の喜び、嬉しさ、達成感は大いなのだと思います。

子どもの力を信じて見守る。そんな援助を心掛けていきたいと思っています。

「指導と評価に生かす記録（令和3年10月）3章2（6）事例2の学級だより」より

グループワークから ～どのような気付きや学びがありましたか？～

○1つの事例を小学校の先生と一緒に確認し合うことができ、貴重な時間となった。保育者と教員と一緒に話をするのが、幼児教育と学校教育の相互理解につながった。



○このような時間をもっと多くもつことで、相互理解が深まると思った。小学校の先生が、園での子供の姿や幼児教育について理解しようとしていることをとてもうれしく感じた。

○互いに交流し、目の前の子供の姿で「10 の姿」を確認してみたい。園のことを小1担任だけでなく、全職員が知ることが大切だと感じたので、学校全体に情報共有していきたい。

全体を通して ～どのような気付きや学びがありましたか？～

○今まで以上に、小学校の先生が、「園で培ってきた力」を引き出すような働きかけをしてくださっていることがわかった。

○「小学1年生はゼロからのスタートではない」という言葉通り、園での育ちが小学校で生かされるような働きかけをしていきたい。

○講話やグループワークを通して、幼児期の育ちを学校教育へつなぐ重要性を実感できた。

○他校では、園の先生に学校に来てもらい、朝の活動や読み聞かせ等に参加してもらい、接続がスムーズに進むように工夫していると知り、自校でも取り入れたいと感じた。

○スタートカリキュラムやアプローチカリキュラム等の様式を統一した方が、園と学校の接続がより進むのではないかとグループワークで話題に上がった。

令和3年度、「園小中一貫教育推進研究委員会」において「かけがわ型育ちと学びのジョイントブック」を作成しました。異校種（園・小・中）の保育・授業参観や、研修等で積極的に活用していただきたいと思います。

かけがわ型
育ちと学びのジョイントブック

～幼児教育の「学びの芽生え」を学校教育の「学びの基礎」へとつなぐ～

令和4年 3月 掛川市教育委員会

育ちと学びをつなぐ

掛川市教育委員会
園小中接続便り②
令和4年11月1日

園・学校訪問や、かけがわ型架け橋カリキュラム開発会議での情報交換の中で、様々な園小中接続への取組を見たり、聞いたりする機会があります。

今回は、その中から2つの取組を紹介したいと思います。

お互いにとってメリットがある、園小中接続へのきっかけづくり①

「幼児期の終わりまでに
育ってほしい姿」の掲示

園訪問に行かせていただいた時、玄関を入るとすぐ、パッと目を引く掲示がありました。下のような(写真①)「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が大きく掲示されていました。

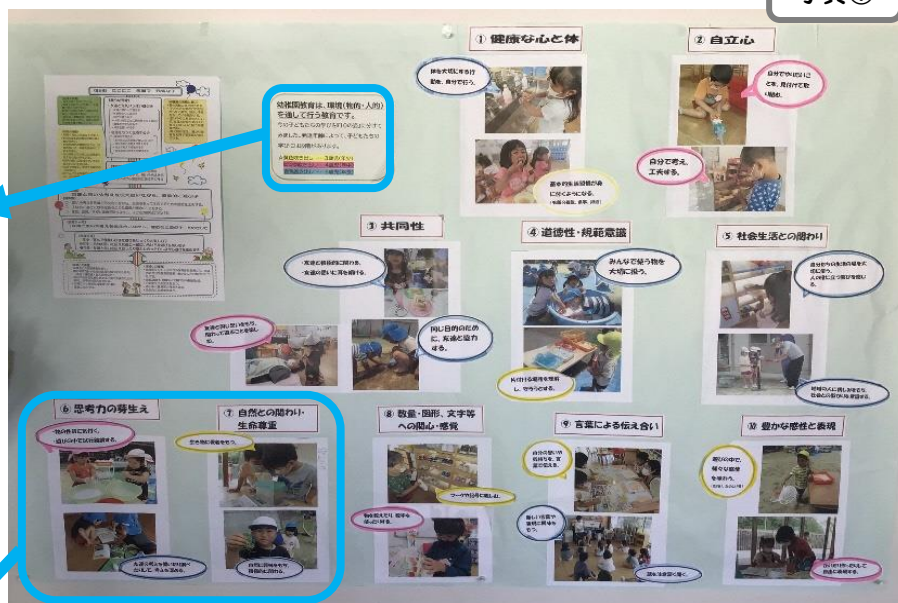
写真①

写真②

幼稚園教育は、環境(物的・人的)を通して行う教育です。

今の子どもたちの学びを『10の姿』に分けてみました。発達年齢によって、子どもたちの学びには段階があります。

☆黄色吹き出し…3歳児(年少)
ピンク吹き出し…4歳児(年中)
青色吹き出し…5歳児(年長)



写真③



園の先生にお話を聞くと、「保護者の方の送迎時や、小・中の先生方が保育参観に来てくださった時、見てもらえるようにしています。」と説明してくださいました。「10の姿」の具体的な子供の姿を、年児ごと(写真②)に、吹き出しで説明(写真③)してあることで、保護者や学校の教員が、遊びの中の学びを捉えることの手掛かりになり、園小中接続のきっかけとなりました。

お互いにとってメリットがある、園小中接続へのきっかけづくり②

園小のお便り交換

続いて紹介するきっかけづくりは、お便り交換です。

園のお便りを小学校で、小学校1年生のお便りを園で、交換して回覧している取組です。

付箋①

【7月のねらい】

年少 *教師や友達と関わりながら、自分の好きな遊びを楽しむ。
*水の心地よさを味わいながら、水遊びを楽しむ。

年中 *全身で水に触れて遊ぶ心地よさや楽しさを感じる。
*気の合う友達と一緒に遊ぶ中で、思いやイメージを自分なりに表現する。

年長 *自分なりに目標をもって挑戦したり、試したりして遊びを楽しむ。
*いろいろな友達と関わりながら、遊びを進めることを楽しむ。

【7月の生活習慣】

年少 *衣服の着脱を教師に手伝ってもらいながら、自分でやろうとする。
*汗をかいたら、ハンカチやタオルで汗を拭こうとする。

年中 *暑い日でも自分なりに暑み、決められたところに片付けようとする。
*立って着替えをする。

年長 *話す人の顔を見て話を聞く。
*汗をかいたら、ハンカチで拭いたり、着替えたりする。

ありがとうございます！

♡5月にカブトムシの幼虫をくださった落合の高塚さんから、花の会で育てているサルビアやマリーゴールドの苗をたくさんいただきました。

♡川久保の牧野さんからカブトムシの成虫をいただきました。早速、触れたり、持ってみたりする姿が見られました。

土方・中幼稚園になり、両地区の方から、分け隔てなく温かく見守られている子どもたちです。

小学校では、ただ回覧するだけではなく、園小中のつながりになる部分に、教頭先生がマーカーを引いたりコメントをつけたりして、回覧してくださっています。(付箋①)

校内で供覧する時、園小接続につながるポイントを押さえてくださることで、職員にとって、ポイントを短時間で共有することにつながっています。

出来上がる頃には夏休みに入ってしまうかと思うぞうさんを園内に飾りたいと思っていますので、下さいね。

めろんぐみ みずあそび☆がんばりカード

みずあそび、がんばりカードを作りました！

めろん組さんでは、プール遊びを通して、自分なりの目標をもって取り組んでほしいと考えています。頑張りカードの内容の興味をもったところや自分ができそうなところから取り組み、少しずつ難しいことにも意欲的に挑戦していけるように援助していきたいと思っています。お家の方でも、お風呂で顔付けをしたり潜ったりするのを励ましてあげてくださいね。

このような水あそびの内容を園で経験して1年生に伝えたい...さて、中の1年生の様子は どうでしょうか...

“みずあそび”がんばりカード

園でも 自分なりの目標を持ち、それに沿って取り組んでいく活動を行っているように、中の水泳や水遊びにおける“マイチャレンジ”にむかえる取り組みですね。

付箋③

左は、「みずあそび」の活動と「みずあそび☆がんばりカード」について紹介している園のお便りです。

園で行っている活動と小学校の教科等の内容のつながりを、保育士と学校の教員が意識することは、接続の大きな一歩となります。

(付箋②・③)

園では、小学校のお便りを回覧することで、小学校ではどのような子供を目指して活動をしているのかを知るきっかけとなっているそうです。

園小では、似ている活動内容がありますが、小学校での取組内容を知ること、園での活動をどうしていくとよいか、考えるきっかけになっているようです。

育ちと学びをつなぐ

掛川市教育委員会
園小中接続便り③
令和5年1月13日

今回は、園や小学校の「環境づくり」や「発問」の工夫等について紹介します。

環境づくりの工夫 ～ 園編 ～

幼児教育は、環境を通して行う教育を基本としています。幼児期の主体的な活動（遊び）は、学校教育と異なり、活動の到達目標が決まっているわけではありません。そのため、**子供たちから芽生えた興味や疑問を大切に育んでいくための「保育者の支援や環境構成」**が欠かせません。幼児教育では、子供たちの「やりたい」「どうなっているの?」「どうして?」というような気持ちが徐々に深まっていくような環境構成が大切になってきます。

11月に園訪問に伺った時、教室の前に、子供の心に響く、下（写真①～⑤）のような、コーナーが作られていました。



写真① どんぐり・まつぼっくり



写真② 様々なたね・きのこ



写真③ たねのクイズ



写真④ あきのたべものクイズ



写真⑤ ふゆのたべもの



教室の前には、左のような「どんぐりひろば」が作られていました。

子供たちは、様々な種類のどんぐりを転がしたり、友達といろいろなコースを作って試したりしたそうです。子供たちの「つぶやき、疑問、わくわく」に沿った、先生方の環境づくりがあったからこそ、そのような子供の姿が見られたと思います。

環境づくりの工夫 ～ 小学校編 ～

お道具箱やロッカーの使い方等、「見れば分かる」「見ればできる」ようにするための視覚的な支援があることで、子供が自分の力で、生活していける環境づくりになります。

言葉で説明するだけでなく、文字や図、写真等を掲示することは、子供の理解の助けとなります。また、1年生の目線の高さを意識し、表示の高さを考えることも大切です。



子供の気付きや自覚を促す発問の工夫 ～小学1年生の授業から～

参観した小学1年生の授業で、1年生の先生方は、子供の思いにそって子供自身もっている力を引き出したり、子供の気付きや育ちを価値づけたりすることを大切にしながら、子供たちに関わってくださっていました。

その中から「発問の工夫」について、教師の意図と合わせて、いくつか紹介します。

発問①「園ではどうだった?」「園の時には、どうしてた?」

意図：子供たちが、これまで「どのような経験をしてきたか」「どのような学びをしてきたか」という視点で、子供を見取り、子供がもっている力を引き出せすようにする。

発問②「〇〇ってどういうこと?」「どうしてそう思うの?」

意図：子供の思いに寄り添い、子供の思いを大切にし、その子供の思いを引き出すようにする。(子供が自分の思いを言語化するための教師の支援)

発問③「どうすればいいかな?」「どっちがいいと思う?」

意図：子供から気付きが生まれたり、自分で考え判断したりするような教師の声かけをすることで、子供の自信につなげるようにする。

現在、保育士や先生方が取り組んでいることの中にも、園小の接続につながっていることがたくさんあると思います。

園小中の「接続の芽」を見つけながら、この「育ちと学びをつなぐ」で紹介していることとつなげて、それぞれの保育や授業に生かしていただきたいと思います。

育ちと学びをつなぐ

掛川市教育委員会
園小中接続便り④
令和5年2月3日

第2回 幼児教育と小学校教育の円滑な接続に向けた研修会を開催しました。

今年度は、幼児教育と小学校教育の共有と理解の推進のため、本研修会の回数を増やし、令和5年1月26日（木）に第2回を開催しました。

小学校教員22名・園保育者34名が参加し、講話とグループワークを通して、幼児教育と小学校教育の円滑な接続の必要性を理解するとともに、アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの充実・活用を図ることを目的に実施しました。

中小学校 1年担任 芥川梓先生、ありがとうございました。



「幼児教育と学校教育の円滑な接続を目指した小1教育」について、講話をしていただきました。

入学当初の子供の実態を把握し、幼児教育を通して身に付けたことを教師が意識し、生かしていく取組でした。

幼児教育で培った力を学校教育へつなげることで、子供が安心して自信をもって、自分の力を発揮できるようにするための実践について話してくださいました。

芥川先生の講話から ～どのような気づきや学びがありましたか？～

（参加者「研修アンケート」より抜粋）

- 園での学びを小学校が共有し、ゼロスタートではなく「つなぐ」ということを意識して、教育活動を行っていくことの大切さが実感できた。
- 園で培った力を考慮し、教師や上級生が手を出し過ぎないように、見守る・待つことを学校全体で共通理解し、1年生が「小学校でも自分たちでできる!」と自信をもって活動できるような支援や活動を自分の学校でも考えていきたい。
- 子供の発言や行動を見守っていると、園での経験を生かした気づきや考えがたくさん出てくるので、教師がそれを見取り、つなげていくといった「教師の出番」を大切にしたい。
- 小学校では、どのようなねらいをもって授業を行っているのか、園の経験が小学校の活動のどこにつながっているのか等を理解することができた。
- 小学校の授業の中で、園の活動と似ているところやつながるところが意外とあることを知ることができ、互いの取組や方法、ねらいを知ることから接続は始まると感じた。

掛川こども園 5歳児学年主任 鈴木有里紗先生、

5歳児担任 渥美和人先生、ありがとうございました。



「幼児教育の環境設定や保育士の援助から小学校への接続を考える」について、講話をしていただきました。

乳児期から幼児期へのつながりを考えた保育、子供の興味・発達段階に合わせた保育士の援助や環境構成等と園小の接続をふまえた取組について話してくださいました。

掛川こども園の先生の講話から ～どのような気付きや学びがありましたか？～

○園での遊びには保育士の意図があり、**子供の気付きに合わせた援助や環境の工夫**をされていることがわかった。幼児教育理解に大変参考になった。

○園と小が**相互理解し、共有**していくことで、子供が小学校に入ってから**園で培った力を発揮し**、見方・考え方を発揮できるように、**自分自身の指導を見つめ直したい**と思った。

○園での活動やねらいを具体的に紹介してくださっていたので、小学校の先生たちの更なる**幼児教育理解につながった**のではないかと感じた。

○園の活動や経験、日々の生活の積み重ねの全てが、小学校生活の土台となっており、**小学校教育の理解を進めながら**、幼児教育を行っていくことが改めて大切だと感じた。

○園で小学校教育の理解を進めながら、**小学校教育を見通した保育**を実践していると感じた。

「ジョイント活動」について、保育士と教員で語り合いました。

グループワークでは、「ジョイント活動」（園小接続のポイントとなる、園での経験が小学校の学びにつながる活動のこと）をもとに、園での経験と小学校での授業内容とのつながりについて、具体的にイメージしながら、保育士と教員が一緒になって話をしました。



グループワークから ～どのような気付きや学びがありましたか？～

○**幼児教育と学校教育では、ねらいは異なるが、似たようなつながる活動がある**と知ったので、互いの活動を知り、授業を行っていくことで、接続の第一歩になると思った。

○園では、**子供の様々な気付きから、遊びや活動を考えている**。園の活動を知り、学校の授業の単元を組むことで、**子供の学びをつなげる**ことになるのではと感じた。

○今後、秋の活動以外のジョイント活動についても話をするすることで、**互いの教育内容を知る機会**になると感じた。園小の先生で話をする機会が増えていくと良い。

○**ジョイント活動について話し合うことで、相互理解につながっていく**。もっと気軽に、どんな活動をしているか、問い合わせができるような関係を築いていきたい。

育ちと学びをつなぐ

掛川市教育委員会

園小中接続便り①

令和5年7月27日

「第1回 幼児教育と小学校教育の円滑な接続に向けた研修会」開催

幼児教育と小学校教育の円滑な接続に向け、幼児教育施設の教職員と小学校の担当教員の合同研修会を令和5年6月16日に開催しました。小学校教員22名・園保育者31名が参加し、講話とグループワークを通して、幼児教育と小学校教育の円滑な接続の必要性を理解するとともに、アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの充実・活用を図ることを目的に実施しました。令和6年1月に第2回研修会を予定しています。

静岡県幼児教育サポートチーム 宮村典雄 様を講師としてお招きしました。



「幼児教育施設等と小学校との交流・連携」について、講話をしていただきました。架け橋期の充実の必要性やそのための方策や課題の説明、また、幼小の交流・連携について、他市の事例を取り上げながら具体的な方法を教えていただきました。交流・連携を通して、互いの教育を共有すること、全職員が役割を共有すること、幼児教育

教育の特質や接続期の重要性を社会と共有することの大切さを再認識することができました。

宮村先生の講話から ～どのような気付きや学びがありましたか？～

(参加者「研修アンケート」より抜粋)

- 幼児教育について学校側に理解してもらいたいという思いだけではなく、**園での姿がどう学校教育につながっているか**、小学校についても学び、理解していくことの大切さを学んだ。
- よりよい保育や子供の発達を改めて捉えるためにも、年長児担任・主任・園長だけでなく、**職員全員で**学校との連携を図る機会をどう作っていくか模索したい。
- 園と学校が**継続的な対話**をし、園と学校の生活を互いが知ること、小学校への生活の見通しをもち意識しながら子供に働きかけていくことの大切さを改めて感じた。
- 1年生のためだけのカリキュラムではなく、**学校全体に関わってくるカリキュラム**だとわかった。
- IOの姿やアプローチカリキュラム・スタートカリキュラムを**地域や保護者に発信**していくと子供の安心感につながると感じた。
- 園と学校の連携が行事等にとどまっていて、相互理解や情報共有の機会が少ないことが課題であると感じた。公開保育週間では、遊びをただ見るだけではなく、**遊びの中にどんな学びがあるか視点をもって参観**したいと思う。
- 今まで何回か1年担任をしてきたが、ここまで接続を意識したことはなかった。**園でどんな経験をし、どんな力をつけてきたのかを知る**ことで、ゼロスタートではなくなる。

「ジョイント活動」について語り合いました。

グループワークでは、冊子に掲載した「ジョイント活動」（園小接続のポイントとなる、園での経験が小学校の学びにつながる活動）をもとに、園での経験と小学校での授業内容とのつながりについて、具体的にイメージしながら保育者と教員が語り合いました。



グループワークから ～どのような気付きや学びがありましたか？～

- 小学校での様々な活動や学習にジョイント活動があることに気付いた。
- 保幼小連絡会や学園の研修会でも、子供の様子だけではなく、**ジョイント活動についての話し合いができる**と**接続を意識することができて**よい。
- 今回のように保育者と学校職員が**実際に言葉で伝え合う**ことで、書面だけではわからない取組の内容や、活動のつながりを知ることができ、大変参考になった。
- 情報を共有することが接続の第一歩**。引き続き様々な形で意見交換や交流ができるとよい。
- 園と小学校との**話し合いを継続**するために、時間の確保や内容の精査、リモート等での開催方法について検討したい。

かけがわ型架け橋カリキュラム開発会議にて、園訪問・小学校授業参観を実施

本年度は、文部科学省「幼保小の架け橋プログラムに関する調査研究事業」の研究2年目となります。研究指定園・校での実践を含めたカリキュラム開発を進めていくため、令和5年6月30日におおさかこども園訪問、7月4日に大坂小学校授業参観を行いました。その後の開発会議の協議では、園小接続に向けての気付きが主に3点挙げられました。



①「環境設定」

園・学校共通で、子供の興味関心、意欲づけのために大切である。

②「友達との関わり」

園では友達のまねをすることで関わっている。小学校では言葉のやりとりが少しずつ出て、友達と関わる。



③「幼児教育の体験の土台があってこそその小学校教育」

園では時間や場所等の枠が自由な中で繰り返し体験して遊ぶ。この経験があって小学校では枠の中で活動することができる。園での経験を想起させることが大切である。

令和4年度、「かけがわ型架け橋カリキュラム開発会議」において『かけがわ型架け橋カリキュラム作成に向けて～幼児教育を学校教育へつなぐ～』を作成しました。昨年度配付した「かけがわ型育ちと学びのジョイントブック」とともに、各学園での研究会や異校種参観時等に持ち寄り、積極的に御活用願います。

今後も、開発会議での協議内容を発信していきます。



育ちと学びをつなぐ

掛川市教育委員会

園小中接続便り②

令和5年11月2日

入学説明会に向けて

11月から2月にかけて、各校で令和6年度小学校入学予定者の入学説明会が行われます。「第1回幼児教育と小学校教育の円滑な接続に向けた研修会」にて、静岡県幼児教育サポートチーム 宮村典雄氏 から、接続期の重要性を保護者や地域と共有することについてのお話がありました。保護者に、幼児教育と小学校教育のつながりや取組を知っていただくことで、保護者は、入学後の学校生活への不安が解消され、安心して子供を学校に送り出すことができます。

そこで、入学説明会では、以下のような内容を紹介することができると思います。

◎幼児期の経験が学校教育につながっていること。

(参考)

- ・第1回幼児教育と小学校教育の円滑な接続に向けた研修会 宮村典雄氏 講話資料
- ・「かけがわ型 育ちと学びのジョイントブック」p4,5

◎「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を参考に、学園内の子供の育ちと学びについて語り合い、保育者と教員が幼児教育と学校教育について理解を深めていること。

◎生活科を中心とした合科的・関連的な指導の工夫をしていること。

◎弾力的な時間割の工夫をしていること。

(参考)

- ・「かけがわ型 育ちと学びのジョイントブック」p6
- ・『かけがわ型架け橋カリキュラム』作成に向けて～幼児教育を学校教育へつなぐ～ p12,13

そして、園小中の「連携」「接続」が進むと以下のような良さがあることもお話できるといいでしょう。

子供にとって良いこと

- ・幼児期に親しんだ活動を取り入れたり、分かりやすく学びに向かう環境づくりをしたりすることで、安心して学校生活をスタートできる。
- ・安心して生活することで、自分のもっている力を発揮することができる。
- ・活動や体験を通して、学びに向かう力を育むことができる。
- ・6年間(9年間)の学びの基礎をつくることができる。

かけがわ乳幼児教育未来学会 4市1町連携キャリアアップ研修より

今年度からかけがわ乳幼児教育未来学会にキャリアアップ研究部が設立され、研修会が5回開催されました。その内、9月19日に開催された第5回は「小学校との接続」と題し、静岡県立大学短期大学部教授 永倉みゆき氏が講話をしてくださいました。

永倉先生の講話から ～どのような学びがありましたか？～

(参加者「研修レポート」より抜粋)

- 「就学前までに～ができるように」と考えがちだったが、困らないためにではなく、**就学しても子供が楽しんで学習に向かえるような経験を園で積み**、心を育むことが大切だと強く感じた。
- 小学校との円滑な接続とは、小学校教育の先取りをすることではない。また、5歳児から一年生への接続だけではない。**それぞれの年齢にふさわしい保育を行うことで資質・能力が育ち**、乳児期からずっとつながっていなければならないことを改めて感じた。
- 幼児期の楽しかった学び(遊び)の経験が、学校での学びへの意欲につながっていく**と感じた。
- 教育は乳児期から始まっていて、その時期だけの教育ではなく、園から小学校・中学校と**将来を見据えた教育**をしていくことが必要。
- 「意欲に基づかない学習は学びにならない」「自発性・自由感の乏しい遊びは学びにならない」という話があった。**意欲をどう引き出すか、自発性・自由感をどう豊かにしていくか**。乳幼児期からの保育・教育の積み重ねが全てつながっていくのだと思った。
- 小学校への円滑な接続のために、保育者と教員が10の姿を共有し、**計画的な交流**をすることが重要だと感じた。
- 小学校への円滑な接続のためには、交流することを目的にするのではなく、**交流してどうだったのかを話し合うことが大切**だと知り、子供の交流だけではなく保育者と教員の交流の場を設け、子供の姿を共通理解する必要性を感じた。
- 小学校と連携する際には、**書類は互いが理解しやすい表現**で伝える工夫が必要だと感じた。

11月18日(土)は「かけがわ教育の日」

今年度の「かけがわ教育の日」の基調講演は、東京大学名誉教授 汐見稔幸氏 による「教えから学びへ～夢中で遊ぶように、自ら学ぶ子を育てるには～」です。長年に渡り、幼児教育に携わってきた汐見先生に、子供の学びの深め方から、今必要な教育の本質について語っていただきます。

掛川市が取り組んでいる、幼児期の育ちや学びを小学校教育につなげる「かけがわ型架け橋カリキュラム」作成の手がかりにもなることと思います。オンライン参加(配信)は、期間限定(当日夕方頃～2週間)で市HPから視聴可能です。ぜひ多くの方の視聴をお願いいたします。

「子どもを主役に」市民総ぐるみで考える
令和5年度 第17回
かけがわ教育の日
テーマ 創ろう！私たちのミライ～変わるものと変わらないもの～ Vol.2
11/18 土
9:30～12:00
会場 掛川市生涯学習センター
オンライン参加も可能(市HPより)
基調講演 東京大学名誉教授 汐見 稔幸氏
汐見 稔幸氏

育ちと学びをつなぐ

掛川市教育委員会
園小中接続便り③
令和6年1月18日

教育課程への位置付けをお願いします

各園・校においては、次年度に向けての話し合いが進んでいることと思います。各種研修会等で依頼していますように、園・小学校の教育課程に園小接続の取組を位置付け、園・学校としての取組となるようお願いいたします。来週1月23日「第2回幼児教育と学校教育の円滑な接続に向けた研修会」にて、各園小から持ち寄った物をもとに情報共有します。

「教えから学びへ ～夢中で遊ぶように、自ら学ぶ子を育てるには～」

11月18日の「かけがわ教育の日」では、東京大学名誉教授 汐見稔幸氏による基調講演が行われました。会場またはオンラインで視聴された方も多いかと思います。以下、幼児期の育ちや学びを学校教育につなげる手がかりとなる内容をまとめました。

東京大学名誉教授 汐見 稔幸氏 による基調講演より

令和5年11月18日「かけがわ教育の日」

◎非認知能力もしっかり育てる教育を

- ・非認知能力は乳幼児期から育つため、乳幼児期での非認知能力育てが大事。
- ・幼児期→児童期のパイプを太くしてうまくつなげること。

【非認知能力の育ち方、育て方】

子供が自分であれこれに興味関心をもち、自分たちであれこれ試行錯誤する中で徐々に育つ。遊びの充実が大事。

…昔は子供は日々の遊びや手伝いの中で頭・心・体を使い、非認知能力（工夫力、アイデア力、忍耐力、感情コントロール力等）を身に付けていた。

→あれこれ指示をしたり、教えたことをそのとおりにさせたりする教育では育たない。
子供は、自分たちで調べ、意見をもち、社会や人の役に立つことを願っている。

◎子供は「自育的な生き物＝自分で自分を育てていく動物」だとわかってきた

子供は、おもしろい！知りたい！等の知的好奇心や欲求が芽生えて、それを知るためやできるようにするため、自ら挑んで、徐々にそれを知り、できるようになっていく動物。

→興味・関心をもたせる、どれだけおもしろい環境をつくるかが大事。

◎経験を多様に重ねることで「学ぶ」

- ・人生に失敗はない。どうしたらよいかを学ぶ場である。
- ・1回目からうまくいくことよりも、何回も繰り返したらうまくいく経験をさせる。
- ・行動に移して初めて「わかった！」になる。

頭の中でわかる→解決方法がわかる→自分のやるべきことがわかる→行動する→「わかった！」

- ・経験によって学ぶことと、教えられて覚えて学ぶことは違う。

市内全園に絵本を配付



かけがわ型架け橋カリキュラム開発会議の協議にて、就学前の市内全園児の環境を整えるために、年長児が在園する市内全園に、小学校の生活科につながる絵本を配付しました。事務局が選書した、植物や生き物、しゃぼん玉や新聞紙等の身近なものを題材にした絵本から選択していただきました。今後も、遊びの中で、自然に絵本を手にする姿が増えることを願っています。



本年度2回目の園訪問・小学校授業参観を実施

かけがわ型架け橋カリキュラム開発会議にて、令和5年10月31日に掛川こども園、11月10日に桜木小学校の保育・授業参観を行いました。その後の開発会議の協議で、園小接続に向けて見えてきたことは以下のとおりです。

①「環境設定」

使いたい材料や道具等を自分で選び、すぐに活動できる環境があることで、主体的な遊び=学びになる。(※下写真参照)

②「友達との関わり」

- ・園では友達の姿を見て刺激を受ける。保育者は他の子にも興味をもたせ、遊びが広まる声掛けをすることが大切である。
- ・小学校ではグループで話し合う等友達と意思を共有する場を設定することが大切である。

③「幼児教育の体験の土台があってこそその小学校教育」

- ・園では夢中になって遊ぶことで得たものが学びとなる。遊びが継続するために保育者の支援が大切である。
- ・小学校では他者意識が高まる。「年長さんに〇〇したい。」というような思いが意欲となる。

④「子供理解」

園・学校共通で、一人一人の子供の思いに寄り添うことが大切である。子供の実態に応じた環境、活動(学習)内容を設定する。



園



小学校



中学校



東中学校の
美術室です!

育ちと学びをつなぐ

掛川市教育委員会
園小中接続便り④
令和6年2月7日

市内全園に鉛筆を配付



下記の研修会にて、年長児が在園する市内全園に、4Bの「こどもえんぴつ」を配付しました。昨今、家庭に鉛筆がない子供もいる中、園で鉛筆にふれ、鉛筆を持つ経験をすることで、書くことへの抵抗を減らし小学校への滑らかな接続を図ることが目的です。ひらがなの学習をするという小学校の前倒しをするためではありません。ぜひ、園での積極的な活用をお願いいたします。

「第2回 幼児教育と小学校教育の円滑な接続に向けた研修会」開催

令和6年1月23日に第2回合同研修会を開催し、小学校教員22名・園保育者30名が参加しました。

講話は、さがわ幼稚園の園務主任 門奈恵子先生と、主任 松本佳奈先生が「園小接続につながる保育実践及び学園の取組について」、和田岡小学校の1年生担任 佐藤仁美先生が「弾力的な時間割の工夫等園小接続に向けた学校教育の取組について」をお話してくださいました。

グループワークは、園小別グループと園小混合グループ（学区毎）の2種類行い、来年度に向けた活発な話し合いがなされました。

参加者の声を参考に、あなたの学園では、あなたの園・校では、どのような取組を取り入れていくことができそうか考えてみてください。



さがわ幼稚園 門奈先生・松本先生の講話から（参加者「研修アンケート」より抜粋）

- 学園内での合同研修の位置付けと、研修の意図や方向性が共有され、積み重ねられていることが円滑な接続につながっていると感じた。
- 保育・授業参観前に、互いの教育内容や参観の視点を共有することで理解が深まると感じた。
- 1年生の子供は、経験があることほど自信をもって取り組む姿が見られるため、園で経験したことを生かしつつ、目の前の子供に合ったスタートカリキュラムや年間計画を作成したい。
- 子供の「やってみたい」の意欲に寄り添いながら遊びや活動を展開しており、子供の満足感や達成感につながっていると感じた。また、失敗を一つの経験とし、そこから考える力や学びにつながり、小学校へ接続を見据えた生活となっていると思った。
- 園の中でも5歳児中心になってしまうところを、3歳児や4歳児も意識をして、主体的な活動を取り入れていた。0歳児からの育ちをつなげていくことが大切だと感じた。
- 園の職員間で共通理解を深め、5歳児と小学校1年生だけではなく育ちのつながりを考えていきたい。

和田岡小学校 佐藤先生の講話から

(参加者「研修アンケート」より抜粋)

- 園での育ちを引き継ぎ、ゼロからのスタートではないことを踏まえ、**子供中心の、子供の意欲から工夫した授業計画**にとっても驚いた。理想的な取組で、幼児教育で培ってきた力を継続的に伸ばしていけると感じた。大規模校は、**学校全体、地域全体での取組が必要**だと思う。
- 園からの育ちをうまく継続していて嬉しかった。今までは就学に向けて「させて」しまうことが多かったが、**子供の姿に合わせてカリキュラムを組み替えて**くださり、園と同じだと思った。「ああしてほしい」ではなく、互いの歩み寄りが大切だと感じた。
- 園でせっかく育てた自主性を、学校の型に、はめ込みすぎることで、無くしてしまっはいけない。**時間割や年間計画の工夫を来年度に向けて今一度見直したい**。
- 学校では、どうしても時間割や年間指導計画にしばられ、「決まっているとおりにやらない」と思っていたが、子供の姿に合わせて、**ゆるやかに学校の学びにつなげる**実例を学べた。
- 入学間もない1年生の実態に合わせ、**15分程度を目安に活動**を組みたい。



グループワークから

(参加者「研修アンケート」より抜粋)

- 学園一体**となって、子供の育ちを支えるように**話合いや交流を**続けていきたい。
- 学園として、**Teams だけではなく HP の作成**をした取組もあり参考になった。
- 多数の園から小学校に入学するので、**園同士で連携してアプローチ**していく方法(同一日に学校見学や交流の依頼)等の工夫をしたい。
- 大きな交流活動ではなくても、普段の様子を見ることができればよいことがわかり、来年度はもっと**気軽に行き来ができるような計画**を立てたい。
- 学区内に園がなく気軽に交流ができなかったが、**招待して保護者に連れてきてもらう方法**で交流したいと考えた。
- 園同士で情報交換する場、園小で話をする場、学園で共通理解する場**が必要だと思った。
- 園小の**互いの研修に参加**し合うことで、学ぶことができるのではないかと思う。
- 担任裁量ではなく、**全職員で共通理解**を図りたい。**引継ぎの仕組み**も工夫したい。
- 弾力的な時間割等、**教育課程に位置付けて目に見える形**にすることで、**誰が担任になっても円滑な接続**ができるのではないかと考える。
- 来年度は、**各園・校の年間計画に、交流、保育・授業参観、研修会を位置付ける**ことになった。
- 園で1年間の遊びをまとめたものがあると聞いたので、それを**ジョイント活動時に活用したり、生活科室に掲示**したりしたい。



今年度、各種研修会等で、園・小学校の教育課程に園小接続の取組を位置付けるよう依頼してきました。この接続便りや、各園・校の研修会参加者が持ち帰った他園・校の情報をもとに、園・学校としての取組となるようお願いいたします。

育ちと学びをつなぐ

掛川市教育委員会
園小中接続便り⑤
令和6年3月1日

今年度の開発会議（全7回）のまとめ

令和5年5月から令和6年2月にかけて、「かけがわ型架け橋カリキュラム開発会議」を7回開催しました。今年度は、昨年度作成した「かけがわ型架け橋カリキュラム Ver.1」を、研究指定園・校で実践し、以下の成果がありました。

実践による指導（教職員）の変化

- ・園及び校内で架け橋期について共通理解を図った。
 - ・園と小学校の関わりが増え、ジョイント活動を基に園の遊びと小学校の学びについて話し合ったりした。
- ⇒◎園では、園の遊びが小学校の学びにどのようにつながるのかがわかった。
また、保育の見直しにつながった。
- ◎小学校では、園での子供の育ちや学びを意識して環境を設定したり、授業を考えたりすることにつながった。
- ・生活科が、園の遊びとも他教科ともつながっているという意識がもてた。
 - ・子供に園での経験を聞こうという意識が高まった。
 - ・どのような声掛けをして、どのようなことに気付かせたいかを考え、自覚的な学びになるように意識した。
 - ・子供の思いを大切に単位を構想した。
- ◎互いの保育・授業参観の時に、保育者・教員の意図を考えたり、園と学校のつながりを意識したりするようになった。

実践による子供の変化



- ・交流を通して自分が小学校になった時の姿がイメージできた。
「自分もやりたい」という思いをもち、刺激となり、成長につながった。
- ・交流を通して小学校の雰囲気を感じることができた。
緊張がほぐれ、小学校への期待がもてた。

- ・園での経験を思い出し、活動につなげようとしていた。
自分たちで活動を考えたり工夫したりした。
- ・振り返りでは、自分自身の成長に気付くことができた。
昨年度の5歳児担任にも価値付けてもらい、子供の自信になった。
- ・「年長さんを楽しませたい。」という気持ちが続いた。
目的がはっきりとし、活動の目標が達成できた。



「かけがわ型架け橋カリキュラム Ver.1」のデータ送付について

第2回幼小接続研修会の参加者から、「自分の園・校で少しずつ作成していきたいため、『かけがわ型架け橋カリキュラム』のデータを頂きたい。」という声がありました。

このカリキュラムは、昨年度の開発会議にて、目指す方向性や在り方、各項目等について協議を重ね、Ver.1として作成し、研究指定園・校で実践してきました。本年度の文部科学省による「幼保小の架け橋プログラムに関する調査研究」実地調査視察者より、『かけがわ型架け橋カリキュラム』の型を高く評価していただきました。来年度も研究指定園・校で実践をし、より活用しやすいものになるよう微調整していきます。そして、園・学校全体のものとして園内・校内で共有して、保育者・教員自身が実践とカリキュラムのつながりに自覚をもつように取り組んでいきます。

研究指定園・校以外の園・小学校においては、来年度も各園・校で作成した『アプローチカリキュラム』・『スタートカリキュラム』を活用していただきます。

完成版の『かけがわ型架け橋カリキュラム』は、来年度末に御案内します。そして、令和7年度から各園・校で作成、運用を依頼する予定です。開発中の『かけがわ型架け橋カリキュラム Ver.1』のデータを市内園小に送付しますので必要に応じて御活用ください。

【 学童 】 かけがわ型架け橋カリキュラム Ver.1		【 小学校 】	
【 学童 】 かけがわ型架け橋カリキュラム Ver.1 学童の生活や学習の場面で、「かけがわ型架け橋カリキュラム Ver.1」の活用を促すための資料です。「かけがわ型架け橋カリキュラム Ver.1」の活用を促すための資料です。「かけがわ型架け橋カリキュラム Ver.1」の活用を促すための資料です。		【 小学校 】 小学校の生活や学習の場面で、「かけがわ型架け橋カリキュラム Ver.1」の活用を促すための資料です。「かけがわ型架け橋カリキュラム Ver.1」の活用を促すための資料です。「かけがわ型架け橋カリキュラム Ver.1」の活用を促すための資料です。	
【 学童 】 かけがわ型架け橋カリキュラム Ver.1 学童の生活や学習の場面で、「かけがわ型架け橋カリキュラム Ver.1」の活用を促すための資料です。「かけがわ型架け橋カリキュラム Ver.1」の活用を促すための資料です。「かけがわ型架け橋カリキュラム Ver.1」の活用を促すための資料です。		【 小学校 】 小学校の生活や学習の場面で、「かけがわ型架け橋カリキュラム Ver.1」の活用を促すための資料です。「かけがわ型架け橋カリキュラム Ver.1」の活用を促すための資料です。「かけがわ型架け橋カリキュラム Ver.1」の活用を促すための資料です。	

【 学童 】 かけがわ型架け橋カリキュラム Ver.1		【 小学校 】	
【 学童 】 かけがわ型架け橋カリキュラム Ver.1 学童の生活や学習の場面で、「かけがわ型架け橋カリキュラム Ver.1」の活用を促すための資料です。「かけがわ型架け橋カリキュラム Ver.1」の活用を促すための資料です。「かけがわ型架け橋カリキュラム Ver.1」の活用を促すための資料です。		【 小学校 】 小学校の生活や学習の場面で、「かけがわ型架け橋カリキュラム Ver.1」の活用を促すための資料です。「かけがわ型架け橋カリキュラム Ver.1」の活用を促すための資料です。「かけがわ型架け橋カリキュラム Ver.1」の活用を促すための資料です。	
【 学童 】 かけがわ型架け橋カリキュラム Ver.1 学童の生活や学習の場面で、「かけがわ型架け橋カリキュラム Ver.1」の活用を促すための資料です。「かけがわ型架け橋カリキュラム Ver.1」の活用を促すための資料です。「かけがわ型架け橋カリキュラム Ver.1」の活用を促すための資料です。		【 小学校 】 小学校の生活や学習の場面で、「かけがわ型架け橋カリキュラム Ver.1」の活用を促すための資料です。「かけがわ型架け橋カリキュラム Ver.1」の活用を促すための資料です。「かけがわ型架け橋カリキュラム Ver.1」の活用を促すための資料です。	

保護者への周知について

本年度は、園小中接続便り第2号を踏まえ、小学校入学説明会で幼児教育と小学校教育のつながりや取組を保護者に紹介して下さった小学校が多いことと思います。

また、園では、幼児期の遊びは大切な学びであり、園での育ちや学びが小学校につながることを、保護者にお伝えいただいていると思います。（「かけがわ型育ちと学びのジョイントブック」、「『かけがわ型架け橋カリキュラム』作成に向けて」参照）

来年度は事務局からも、保護者向け通信の発行を予定しています。各園・校においても、保護者への積極的な周知をお願いいたします。

保護者にとって良いこと

- ・ 学校生活への不安が解消され、**保護者は安心して子供を学校に送り出せる。**
- ・ 園や学校への**理解と信頼**につながる。